

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-282097

(43)Date of publication of application : 02.10.2002

(51)Int.Cl.

A47D 13/02

(21)Application number : 2001-088038

(71)Applicant : COMBI CORP

(22)Date of filing : 26.03.2001

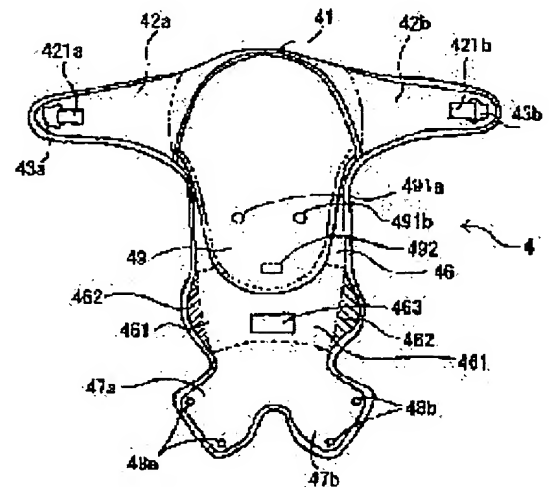
(72)Inventor : MINOGUCHI KAZUMI
KIMURA YUKO

(54) HEAD SUPPORT FOR INFANT, BABY BAND WITH HEAD SUPPORT FOR INFANT, AND BABY BAND FOR HOLDING BABY HORIZONTALLY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a head support for an infant which can prevent the feet of the infant from being pressed by the body of the wearer of the baby band when the infant is held horizontally and to provide a baby band with the head support and a baby band for holding an infant horizontally.

SOLUTION: The head support for an infant has a sheet 46, a side wall 41 on the edge of the sheet 46 for enclosing the head of an infant, branches 47a and 47b which are branched from the sheet 46 at the lower end facing to the edge on which the side wall 41 is fixed, engaging means 48a and 48b with which the branches 47a and 47b are engaged each other. The sheet 46 has a seat 461 for supporting the back of the infant. The both ends of the seat 461 are formed to protrude outward.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

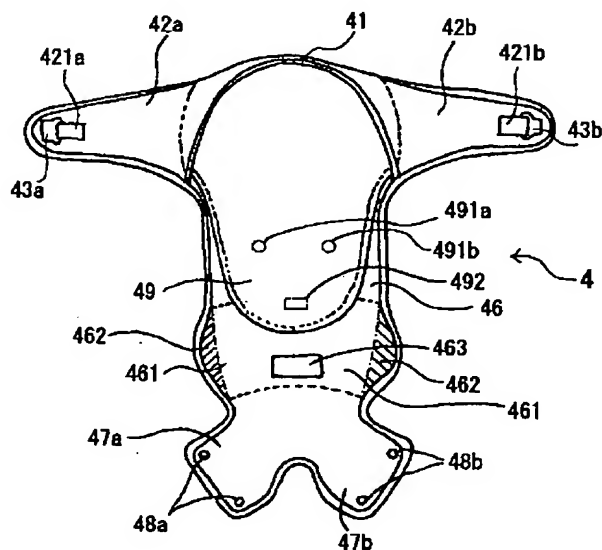
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

BEST AVAILABLE COPY

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 乳児が横たわる敷布部と、乳児の頭部を囲うようにこの敷布部の縁部に設けられる側面立上部と、この側面立上部が設けられる縁部と対向する敷布部の下端が二股に分かれた分岐部と、この分岐部を互いに係合しあう係合手段と、を備えた乳児用ヘッドキープにおいて、

前記敷布部は、前記乳児の腰部を支える座部を備え、この座部の両側端が外方へ突出するように延出形成されていることを特徴とする乳児用ヘッドキープ。

【請求項 2】 前記座部は、その内部に綿とウレタンとポリプロピレン板と発泡ポリエチレン板とを前記乳児に触れる面から順に外方に向かって積層して構成されていることを特徴とする、請求項 1 記載の乳児用ヘッドキープ。

【請求項 3】 前記ウレタンおよび前記発泡ポリエチレン板は、前記座部と略同一の大きさに形成され、前記ポリプロピレン板は、前記ウレタンおよび前記発泡ポリエチレン板より小さく形成されていることを特徴とする、請求項 2 記載の乳児用ヘッドキープ。

【請求項 4】 背当て部と股当て部と胸当て部とで袋状に形成されるとともに袋の底部に足出し用の足出し口が形成され、この足出し口から足を外へ出させながら乳児を袋内に収容する収容本体部と、前記請求項 1～3 のいずれかに記載の乳児用ヘッドキープと、を備えていることを特徴とする、乳児用ヘッドキープ付き子守帯。

【請求項 5】 前記座部と前記背当て部とが、互いに動かないように止着する止着手段を備えて構成されていることを特徴とする、請求項 4 記載の乳児用ヘッドキープ付き子守帯。

【請求項 6】 背当て部と股当て部と胸当て部とで袋状に形成されるとともに袋の底部に足出し用の開口部が形成され、該開口部から足を外へ出させながら乳児を前記袋内に収容する収容本体部を備え、乳児を水平状態で搬送する横抱き子守帯において、前記背当て部は、乳児の腰部を支える座部を備え、前記座部の両側端が外方へ突出するように延出形成されていることを特徴とする、横抱き子守帯。

【請求項 7】 前記座部は、その内部に綿とウレタンとポリプロピレン板と発泡ポリエチレン板とを乳児に触れる面から順に外方に向かって積層して構成されていることを特徴とする、請求項 6 記載の横抱き子守帯。

【請求項 8】 前記ウレタンおよび前記発泡ポリエチレン板は、前記座部と略同一の大きさに形成され、前記ポリプロピレン板は、前記ウレタンおよび前記発泡ポリエチレン板より小さく形成されていることを特徴とする、請求項 6 記載の横抱き子守帯。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、乳児を抱っこして

歩行する際に用いる子守帯に関し、特に、乳児を水平状態で抱っこする際に、乳児の足が子守帯装着者の身体に押さえられ圧迫されるのを防止することができる乳児用ヘッドキープ、乳児用ヘッドキープ付き子守帯および横抱き子守帯に関する。

【0002】

【従来の技術】 乳幼児を抱っこして歩行するときに用いる子守帯としては、通常、乳児の成長に合わせて乳児用子守帯と幼児用子守帯とに使い分けるのが一般的である。

【0003】 すなわち、まだ首の座らない乳児のためには乳児を水平にした状態で保持するのがよく、そのための子守帯としては、例えば特開平 10-225343 号公報に記載された乳児用子守帯がある。これによると、子守帯本体に斜め上方に立ち上がった本体と、その両側に帯状部を有するヘッドサポートを設けたベビーキャリアが記載されており、これによって、乳児を安全にかつ乳児にとって快適に運べるようになる。

【0004】 一方、首の座った幼児に使用される子守帯としては、垂直状態で運搬するのが幼児にとって快適であり、そのための子守帯として、例えば、特開平 9-28518 号公報には、後頭部から側頭部を支えることの出来る取り外し可能なヘッドサポートを有する幼児用子守帯が記載されている。

【0005】 しかし、乳児用子守帯は乳児が成長して幼児になったときには使用できなくなり、逆に、幼児用子守帯を乳児用子守帯として用いるために水平状態で使用しようとしても水平状態で安全に保持・運搬できる部材がないためそのままでは使用することができない。すなわち、これらは、いずれも乳児のみか又は幼児のみの単機能的にしか使用することが出来ず、子供の成長にあわせて別の子守帯に取り換える必要があった。

【0006】 このため、本出願人は、特開 2000-245581 号公報に示すように、子供が乳児から幼児に成長しても 1 個の子守帯で済ませることのできる併用式の子守帯でしかも乳幼児にとって安全でかつ快適な乳児用ヘッドキープ、乳児用ヘッドキープ付き子守帯を提案した。

【0007】 この乳児用ヘッドキープによると、平面視が略 T 字状で、この T 字状の横棒構成部が立ち上がる側面立上がり部を構成し、側面立上がり部の両端近傍および T 字状の縦棒構成部下端近傍にそれぞれ子守帯の一部に係止される係止部を備えるので、垂直運搬用の幼児用子守帯に係止させることにより、幼児用子守帯で乳児を水平状態で安全かつ快適に運搬することが可能となる。

【0008】 また、この乳児用ヘッドキープ付き子守帯によると、背当て部、股当て部、胸当て部とからなる子守帯本体の背当て部に、前述した乳児用ヘッドキープを取り付けることにより、幼児用子守帯を乳児用として最初から使用することが可能となる。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】特開 2000-245581 号公報に示される乳児用ヘッドキープ、乳児用ヘッドキープ付き子守帯によれば、幼児用子守帯で乳児を水平状態で安全かつ快適に運搬することが可能となり、また、幼児用子守帯を乳児用として最初から使用することが可能となるが、なお、以下のような解決すべき課題がある。すなわち、例えば、図 20 に示すように、子守帯装着者が乳児を乳児用ヘッドキープ 101 を取り付け

た乳児用ヘッドキープ付き子守帯 100 内に収容して水平状態に保持する際には、乳児の足 102 が乳児用ヘッドキープ付き子守帯 100 の外に出るように使用されるが、図 21 に示すように、乳児の足 102 の片方が子守帯装着者の腹部等の身体 200 に押さえつけられ圧迫される。その結果、乳児が足を動かす自由度を制限されてしまう。

【0010】従って、本発明の目的は、乳児を水平状態で抱っこする際に、乳児の足が子守帯装着者の身体に押さえられ圧迫されるのを防止することができる乳児用ヘッドキープ、乳児用ヘッドキープ付き子守帯および横抱き子守帯を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を解決するために、乳児が横たわる敷布部と、乳児の頭部を囲うように敷布部の縁部に設けられる側面立上部と、側面立上部が設けられる縁部と対向する敷布部の下端が二股に分かれた分岐部と、分岐部を互いに係合しあう係合手段とを備え、さらに、前記敷布部が乳児の腰部を支える座部を備え、座部の両側端が外方へ突出するように延出形成されていることを特徴とする乳児用ヘッドキープを提供するものである。

【0012】以上の構成において、前記座部は、その内部に綿とウレタンとポリプロピレン板と発泡ポリエチレン板とを乳児に触れる面から順に外方に向かって積層して構成されていることが望ましい。また、ウレタンおよび発泡ポリエチレン板は、座部と略同一の大きさに形成され、ポリプロピレン板は、ウレタンおよび発泡ポリエチレン板より小さく形成されていることが望ましい。

【0013】また、本発明は、上記課題を解決するため、背当て部と股当て部と胸当て部とで袋状に形成され、とともに袋の底部に足出し用の足出し口が形成され、この足出し口から足を外へ出させながら乳児を袋内に収容する収容本体部と、乳児用ヘッドキープと、を備えていることを特徴とする、乳児用ヘッドキープ付き子守帯を提供するものである。

【0014】この場合、座部と背当て部とが、互いに動かないように止着する止着手段を備えて構成されていることが望ましい。

【0015】さらに本発明は、上記課題を解決するため、背当て部と股当て部と胸当て部とで袋状に形成され

るとともに袋の底部に足出し用の開口部が形成され、開口部から足を外へ出させながら乳児を袋内に収容する収容本体部を備え、乳児を水平状態で搬送する横抱き子守帯において、前記背当て部が、乳児の腰部を支える座部を備え、座部の両側端が外方へ突出するように延出形成されていることを特徴とする、横抱き子守帯を提供するものである。

【0016】以上の構成において、座部は、その内部に綿とウレタンとポリプロピレン板と発泡ポリエチレン板とを乳児に触れる面から順に外方に向かって積層して構成されていることが望ましい。また、ウレタンおよび発泡ポリエチレン板は、座部のと略同一の大きさに形成され、ポリプロピレン板は、ウレタンおよび発泡ポリエチレン板より小さく形成されていることが望ましい。

【0017】本発明の上述の構成によれば、上記座部が突出形成されているため、座部が装着者と乳児の足との間にスペースを確保することができる。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、添付図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。本発明の実施の形態に係る子守帯は、乳児を水平状態で運搬することができ、その際、乳児の足を快適にすることができるものである。なお、以下の説明において、本発明の実施形態に係る子守帯は、乳児用の水平状態の運搬と幼児用の垂直状態の運搬との両方に使用できる兼用タイプのものに例をとって説明する。

【0019】図 1～図 3 は、本発明の実施の形態に係る乳児用ヘッドキープ 4 を示す図であり、図 1 はその斜視図、図 2 はその背面図、図 3 はその側面図である。この乳児用ヘッドキープ 4 は、後述する子守帯本体 3 に着脱可能に取り付けられて乳児用ヘッドキープ付き子守帯 1 を構成するものであり、その乳児用ヘッドキープ付き子守帯 1 内に乳児を水平状態で載置した際に、乳児の頭部を安定に保持し、子守帯装着者と乳児の足との間にスペースを持たせるようにしたものである。

【0020】このため、乳児用ヘッドキープ 4 は、図 1 に示すように、乳児が横たわる敷布部 46 と、乳児の頭部を囲うように敷布部 46 の縁部からほぼ垂直に立ち上がる側面立上部 41 と、この側面立上部 41 が設けられる縁部と対向する敷布部 46 の下端が二股に分かれた分岐部 47a、47b と、を備えて構成されている。

【0021】以下、構成各部を項目を分けて説明する。＜敷布部 46＞敷布部 46 は、乳児の腰部を支える座部 461 を備えており、この座部 461 は、図 2 に示すように、両側端が外方に突出するように延出形成されている。すなわち、乳児用ヘッドキープ 4 の幅方向に向けて、座部 461 は突出した突出部 462、462 を設けて形成されている。なお、図 2 中の斜線領域が突出部 462、462 である。

【0022】さらに、図 2 に示すように、座部 461 の

10

20

30

40

50

乳児が接する面とは反対側の面に面ファスナー463が設けられている。この面ファスナー463は、後述する背当て部32の面ファスナー80と係合して、座部461を子守帯本体3に動かないように止着する。これら面ファスナー463、80が、座部461を子守帯本体3に止着する止着手段として設けられている。なお、この止着手段としては、面ファスナー463、80の代わりに、プラスチックホックなどを用いて構成してもよい。

【0023】図4は座部461の構造を示す断面図である。図に示すように、この座部461（敷布部46）の布地の間には、乳児に触れる面から外側へ順に綿461a、ウレタン461b、ポリプロピレン板（以下、PP板と称す）461c、発泡ポリエチレン板（以下、ペフと称す）461dが積層されている。PP板461cおよびペフ461dは、座部461の剛性のある程度一定に保持するために内部に内蔵した剛性部材である。

【0024】各積層材料は、例えば、ウレタン461bが8mm、PP板461cが2mm、ペフ461dが4mmの厚みをもっている。

【0025】図5（a）、（b）は、この座部461の構造例を示す斜視図であり、特に、図5（a）は、座部461の輪郭と略同じ大きさで略同じ形状に形成されたペフ461dにPP板461cが載置された状態を示している。図に示すように、PP板461cはペフ461dよりも小さく構成されている。なお、図2に示す斜線領域には、PP板461cを内蔵せずに座部461を構成している。これは、突出部462が装着者の腹部などに衝突した場合に、突出部462が緩衝材として機能し、装着者との衝突力を緩和させるためである。

【0026】なお、図5（b）に示すように、ウレタン461bは、クッション性を持たせるために設けたものであり、図5（a）に示すペフ461dと相似した形状に形成される。但し、ウレタン461bの両側部は人体に接する位置になるので、その部分のみ突出させるようにしている。また、綿461aは、クッション性を持たせるために設けたものであり、図6に斜線で示す領域に設けられている。

【0027】＜側面立上部41＞側面立上部41は、図3に示すように、敷布部46の上端縁部からほぼ垂直に立ち上がるように設けられており、この側面立上部41には、図1～図3に示すように、アーム部42a、42bが延設されている。このアーム部42a、42bの両端近傍421a、421bには、乳児頭部の触れない側にフックオス43a、43bが後述する子守帯本体3のフックメス63a、63bに取り付けるために設けられている。

【0028】図7は、この側面立上部41の構成材料を説明する図であり、図7（a）は側面立上部41の拡大図、図7（b）は（a）のA-A線の断面図である。図7（b）に示すように、この側面立上部41は、乳児に

触れる面から外側に向かって順に、2枚の生地410、410と、厚さ10mmのウレタン411と、厚さ4mmの発泡材412と、表生地413とが積層されている。ウレタン411は復元力が高いため、乳児の顔周りの空間を広く保つことができる。なお、本実施の形態においては、2枚の生地410、410を使用したものについて説明したが、1枚であっても良く、また、その生地の素材はワッフル地、パイル地等が使用される。

【0029】＜分岐部47a、47b＞分岐部47a、47bには、これらを互いに係合させる係合手段としてプラスチックホック48a、48bが取り付けられている。

【0030】以上、各部の構成を説明したが、乳児用ヘッドキープ4は、更に、図1および図2に示すように、敷布部46に重ねられ敷布部46よりも面積の小さいフラップ部49を有している。そして、敷布部46とフラップ部49を重ねたその上部（乳児頭部側）を側面立上部41と一体に縫い合わせ、また、その横部の下方と下部は縫い合わせずに自由端とし、全体でポケット状をなしている。このポケット状内部に子守帯本体3の後述する背当て部32が挿入されることにより、乳児用ヘッドキープ4が子守帯本体3に取り付けられるようになる。

【0031】このフラップ部49の裏面にはプラスチックホック491a、491bや面ファスナー492が設けられている。これらプラスチックホック491a、491bや面ファスナー492は子守帯本体3の後述するプラスチックホック73a、73bや面ファスナー74と係合されるようになっている。

【0032】図8および図9は、図1～図7に示した乳児用ヘッドキープ4が取り付けられる子守帯本体3を示す図であり、図8はその正面図、図9はその背面図である。これらの図に示すように、子守帯本体3は、背当て部32、股当て部33、胸当て部34とから幼児を収容する袋を形成し、背当て部32に固定した2本の肩帯部64a、64bと、この肩帯部64a、64bに設けられたフックメス63a、63bと、肩帯部64a、64bの各々の下端に係止バックル61a、61bを介して接続される調節ベルト65a、65bと、この調節ベルト65a、65bの長さ調節をする環具66a、66bを有し、この環具66a、66bから延びるベルトの先にはウエストバックル67a、67bを有している。

【0033】背当て部32は、乳児の背中から頭部にかけて当たる部分であり、内部に芯材が入っている。この背当て部32の下部には乳幼児の股に当たる股当て部33が接続されている。背当て部32と対向して設けられて乳幼児の胸が当たる胸当て部34は股当て部33に接続されている。これら背当て部32、股当て部33、胸当て部34は綿などの布製で形成されている。なお、背当て部32と股当て部33と胸当て部34とが接続して、幼児が収容される袋が形成されるがその袋の底部に

は乳幼児の足を出すための足出し口35が形成される。

【0034】この背当て部32と胸当て部34は、子守帯本体3の一方の側面で接続しており、もう一方の側面では凹部と凸部とからなる頑丈なホック79a、79bで開閉自在に着脱するようになっている。

【0035】なお、背当て部32の表側の面にはポケット72が設けられている。ポケット72の表面には面ファスナー74が設けられ、さらにポケット72の図8中上部には、乳児用ヘッドキープ4の取り付け時に使用するプラスチックホック73a、73bが設けられてい

る。また、ポケット72のフラップ73の裏面には、この面ファスナー74と係合する面ファスナー75が設けられており、乳児用ヘッドキープ4を使用しない時にこの面ファスナー74と面ファスナー75とが係合してフラップ73でポケット72を塞ぐようになっている。

【0036】一方、背当て部32の裏側の面、すなわち、乳児用ヘッドキープ4と接する面には、座部461の面ファスナー463と係合する面ファスナー80が設けられている。

【0037】また、子守帯本体3の背当て部32と股当て部33との間にはアジャストファスナー78が取り付けられており、乳幼児の体型に合わせてアジャストファスナー78を開閉して互いに係合状態を解くことによつて子守帯本体3の深さを2段階に調整できるようになっている。

【0038】なお、背当て部32と股当て部33との間には襠（まち、図示省略）が設けられており、この襠はアジャストファスナー78が閉じられると折り畳まれ、アジャストファスナー78が開かれると展開して子守帯本体3の深さを深くするようになっている。

【0039】また、襠は、背当て部32と股当て部33とにそれぞれ接続しており、背当て部32と股当て部33を構成する生地と一体に構成されたり、別体の生地を背当て部32と股当て部33とに接続して構成されたりしてもよい。

【0040】さらに、背当て部32には、アジャストファスナー78側へ突出した突片状のファスナー開放防止用の防止フラップ781が設けられている。防止用フラップ781は、アジャストファスナー78が乳児の足の重さで自然に開いたり、装着者が意識的であつたにせよ無意識であつたにせよ何らかの動作で開くのを防止するものであり、股当て部33にプラスチックホック782で固着するようになっている。この固着手段としては、プラスチックホック以外に、例えば、面ファスナーとしてもよい。

【0041】この開放防止用フラップ781は、アジャストファスナー78が閉じている状態において、少なくともファスナー引き手を覆うように形成されている。なお、この開放防止用フラップ781は、背当て部32と同様に生地により形成されている。このような開放防

止用フラップ781を設けることにより、乳児の足の重さなどによって生じる力を開放防止用フラップ781のプラスチックホック782に集中させて、アジャストファスナー78が開くのを防止する。

【0042】また、背当て部32から胸当て部34にかけての外側に、バックル77a、77bを備えた安全帯76a、76bを有している。この安全帯76a、76bの長さを調節することによって、乳児の胴回りの調節をする。

【0043】図10は、以上の図1～図7に示した乳児用ヘッドキープ4を図8および図9に示した子守帯本体3に取り付けた乳児用ヘッドキープ付き子守帯1を示す斜視図である。

【0044】以下、この乳児用ヘッドキープ付き子守帯1の使用方法について説明する。子守帯本体3の背当て部32上方に乳児用ヘッドキープ4を持ってゆき、乳児用ヘッドキープ4を上から背当て部32に向けて下ろしてゆく。このとき、乳児用ヘッドキープ4の敷布部46は、背当て部32と胸当て部34との間に入れられる。

【0045】乳児用ヘッドキープ4をそのまま下げていき、フラップ部49は背当て部32の外側に出し、これによって敷布部46とフラップ部49との間の成すポケット部に背当て部32が挿入される。

【0046】背当て部32が敷布部46とフラップ部49の間のポケット部に挿入されてゆくと、最終的に背当て部32の上端がポケット部分の上端に当接して、それ以上の挿入ができなくなり、図11に示すように、子守帯本体3とヘッドキープ4とが固定される。

【0047】次いで、図12に示すように、乳児用ヘッドキープ4に設けたプラスチックホック491a、491bを子守帯本体3のフラップ73の裏面に設けたプラスチックホック73a、73bと固着させ、次いで図13に示すように、乳幼児ヘッドキープ4に設けた面ファスナー492を子守帯本体3の面ファスナー74と互いに固着させる。また、乳幼児ヘッドキープ4の面ファスナー463と子守帯本体3の面ファスナー80とを係合させて、座部461を子守帯本体3に止着させる。

【0048】さらに、図14に示すように、敷布部46の二股に分かれた分岐部47a、47bをそれぞれ子守帯本体3の袋底の足出し口35、35から出し、調節ベルト65a、65b、ウエストバックル67a、67b等を束ねて、各分岐部47a、47bを重ね合わせて、プラスチックホック48a、48bで係合させる。

【0049】そして、乳児用ヘッドキープ4のアーム部421a、421bに設けられたフックオス43a、43bと、子守帯本体3の肩帯部64a、64bに設けられたメスフック63a、63bとを係合させると、乳児用ヘッドキープ4の子守帯本体3への固定が完了する。この中に乳児が水平に収容され、母親によって安全かつ快適に運搬される様子が図15(a)に示されている。

【0050】また、子供が成長し、首が座るようになれば、乳児用ヘッドキープ4を外して垂直運搬タイプとして使用することができる。なお、例えば、幼児が寝たとき等、所望に応じて適宜後述する幼児用ヘッドサポート5を装着することができる。

【0051】なお、上記子守帯本体3には、図8に示すように、背当て部32の上部に挿通部321がこの背当て部32内部を左右に横切って設けられ、この挿通部321に幼児用ヘッドサポート5（図16参照）が背当て部32の上部の挿通部321に取り付けられる構成になっている。この幼児用ヘッドサポート5は幼児の頭部を補助的に支えるものである。幼児用ヘッドサポート5は布製であり、図16に示すように帯状の形態を呈している。図において、頭部が支持される中心部51からアーム部52a、52bから両端部に向かうにしたがって若干細幅とされ、両端近傍にフックオス53a、53bを有している。

【0052】この幼児用ヘッドサポート5を子守帯本体3に取り付けるには、背当て部32の内側上部に形成した挿通部321にこの幼児用ヘッドサポート5を通し、ヘッドサポート5両端に設けられたフックオス53a、53bを肩帯部64a、64bの上部に設けたフックメス63a、63b（図8参照）に係合させれば、幼児用ヘッドサポート5付き子守帯1ができあがる。この中に幼児が垂直に収容される。図15（b）には、母親によって安全かつ快適に保持される様子が示されている。

【0053】次に、乳児用ヘッドキープ4の座部461の作用について説明する。図15（a）に示すように、乳児が子守帯本体3によって水平に収容されている状態において、乳児用ヘッドキープ付き子守帯1は、図17に示すように、乳児用ヘッドキープ4の座部461が装着者の腹部など身体200に衝撃する。また、座部461の突出部462は、装着者の腹部など身体200と弾力的に衝撃する。

【0054】したがって、本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープ4や乳児用ヘッドキープ付き子守帯1によれば、座部461の突出形成された突出部462が装着者の腹部など身体200に衝撃して、子守帯本体3自体が装着者の腹部など身体200と接するのを抑止するので、子守帯本体3の足出し口35から出される乳児の足102と、装着者の腹部などとの間にスペースを確保することができる。それにより、幼児は、子守帯本体3に水平に収容されている状態で、足を装着者の腹部等に押されることがないので、圧迫されることがない。その結果、自由に足を動かすことができ、幼児を快適に運搬することができる。

【0055】また、座部461の突出部462は、図4および図5に示したように、PP板461cを設けずに構成しているため、突出部462が緩衝材として機能

し、装着者の腹部等との衝撃力を緩和して、装着者が痛い思いをせずにすむ。

【0056】さらに、乳児用ヘッドキープ4に設けた面ファスナー463と子守帯本体3に設けた面ファスナー80とに係合することで、座部461を子守帯本体3に動かないように止着することができるので、座部461が装着者の腹部などに衝撃してもずれないようにしているため、確実に子守帯本体3の足出し口35から出される乳児の足102と、装着者の腹部などとの間にスペースを確保することができる。

【0057】上記では、乳児用ヘッドキープ付き子守帯1が子守帯本体3に対して乳児用ヘッドキープ4を着脱可能に構成したことで、水平及び垂直運搬兼用の場合について説明したが、乳児用ヘッドキープ付き子守帯1は乳児用ヘッドキープ4を子守帯本体3に固着して取り付けることにより、水平運搬専用として構成されていてもよい。

【0058】また、本発明の子守帯は、乳児用ヘッドキープ4を備えずに構成することもできる。この場合、例えば、図18および図19に示すように、上記子守帯本体3の背当て部32に座部461を備えて構成してもよい。この場合、この座部461の突出部462が装着者の腹部などと衝撃し、装着者と乳児の足との間にスペースを確保できるので、横抱き専用子守帯として構成される。上記詳述した以外に、本発明は、その趣旨を逸脱しない範囲において様々な形態で実施できる。

【0059】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明の乳児用ヘッドキープ、乳児用ヘッドキープ付き子守帯および横抱き子守帯によれば、座部が装着者と乳児の足との間にスペースを確保することができるので、乳児の足が子守帯装着者の身体に押さえられ圧迫されるのを防止することができる。その結果、乳児は足を自由に動かすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープを示す斜視図である。

【図2】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープを示す背面図である。

【図3】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープを示す側面図である。

【図4】本発明の実施形態に係る座部の構造を示す断面図である。

【図5】本発明の実施形態に係る座部の構造例を示す斜視図である。

【図6】本発明の実施形態に係る座部まわりの構造例を示す斜視図である。

【図7】（a）は本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープを示す部分斜視図であり、（b）は（a）のA-A断面図である。

【図8】本発明の実施形態に係る子守帯本体を示す正面図である。

【図9】本発明の実施形態に係る子守帯本体を示す背面図である。

【図10】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープ付き子守帯を示す斜視図である。

【図11】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープのポケットに子守帯本体の背当て部が差し込まれた状態を示す正面図である。

【図12】図8および図9に示す子守帯本体に、図1～7に示す乳児用ヘッドキープを取り付ける手順を説明するための図である。

【図13】図8および図9に示す子守帯本体に、図1～7に示す乳児用ヘッドキープを取り付ける手順を説明するための図である。

【図14】図8および図9に示す子守帯本体に、図1～7に示す乳児用ヘッドキープを取り付ける手順を説明するための図である。

【図15】(a)は本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープ付き子守帯を使用して乳児を水平状態に保持する状態を示す図であり、(b)は幼児を垂直状態で保持する状態を示す図である。

【図16】本発明の実施形態に係る幼児用ヘッドサポートを示し、(a)は正面図、(b)は背面図である。

【図17】本発明の実施形態に係る乳児用ヘッドキープ付き子守帯を装着した状態を示す図である。

【図18】本発明の実施形態に係る横抱き子守帯を示す正面図である。

【図19】本発明の実施形態に係る横抱き子守帯を示す背面図である。

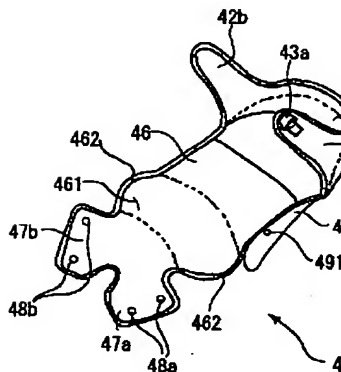
*【図20】従来の子守帯を装着した状態を示す図である。

【図21】従来の子守帯を装着した状態を示す図である。

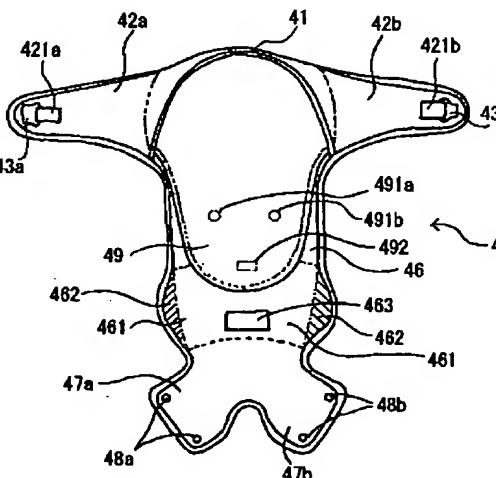
【符号の説明】

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 | 乳児用ヘッドキープ付き子守帯 |
| 3 | 子守帯本体 |
| 3 2 | 背当て部 |
| 3 3 | 股当て部 |
| 3 4 | 胸当て部 |
| 3 5 | 足出し口 |
| 4 | 乳児用ヘッドキープ |
| 4 1 | 側面立上部 |
| 4 2 a, 4 2 b | アーム部 |
| 4 6 | 敷布部 |
| 4 6 1 | 座部 |
| 4 6 1 a | 綿 |
| 4 6 1 b | ウレタン |
| 4 6 1 c | PP板 (ポリプロピレン板) |
| 4 6 1 d | ペフ (発砲ポリエチレン板) |
| 4 6 2 | 突出部 |
| 4 6 3 | 面ファスナー |
| 4 7 a, 4 7 b | 下端部 |
| 4 8 a, 4 8 b | プラスチックホック (係止部) |
| 4 9 | フラップ部 |
| 5 | 幼児用ヘッドサポート |
| 6 4 a, 6 4 b | 肩帯部 |
| 7 8 | アジャストファスナー |
| 7 8 1 | 防止用フラップ |
| 7 8 2 | プラスチックホック |

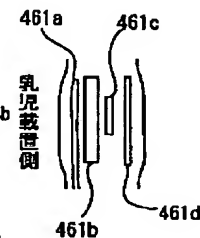
【図1】



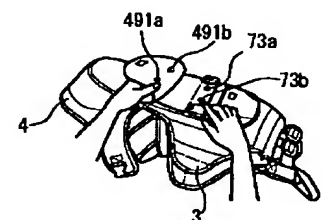
【図2】



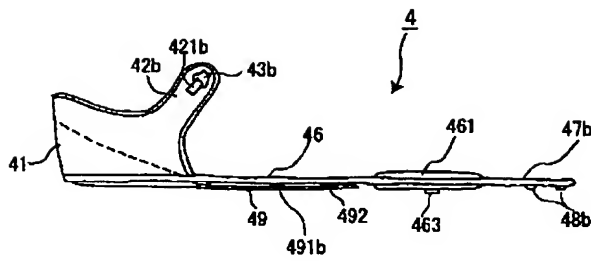
【図4】



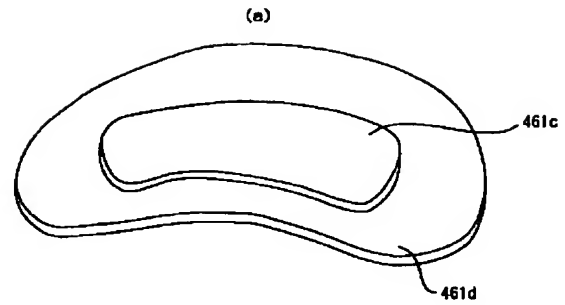
【図12】



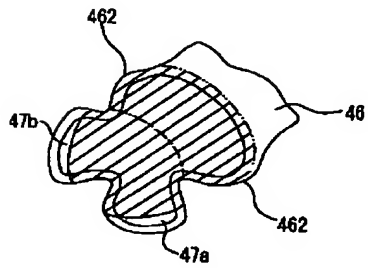
【図3】



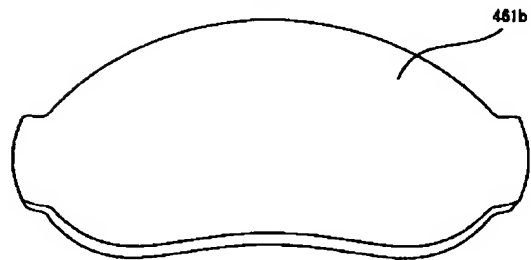
【図5】



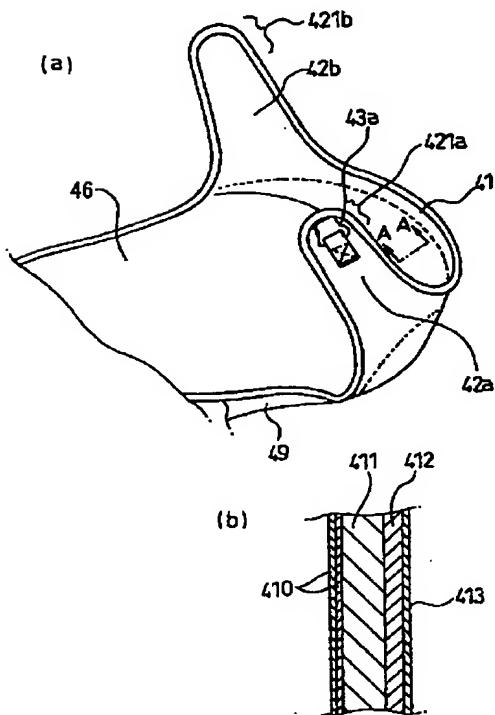
【図6】



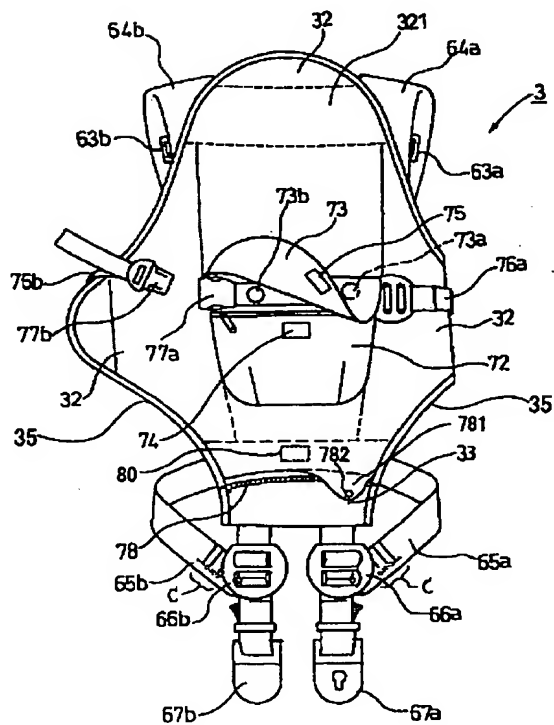
(b)



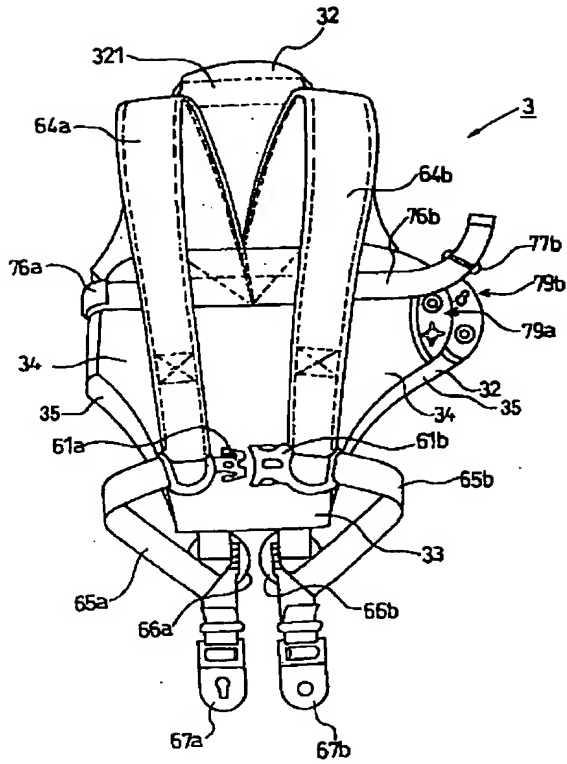
【図7】



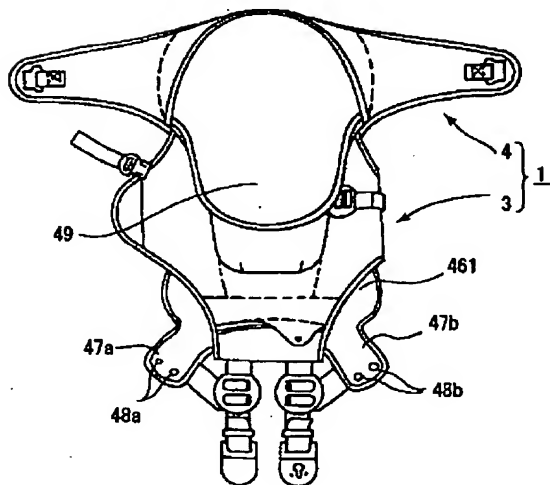
【図8】



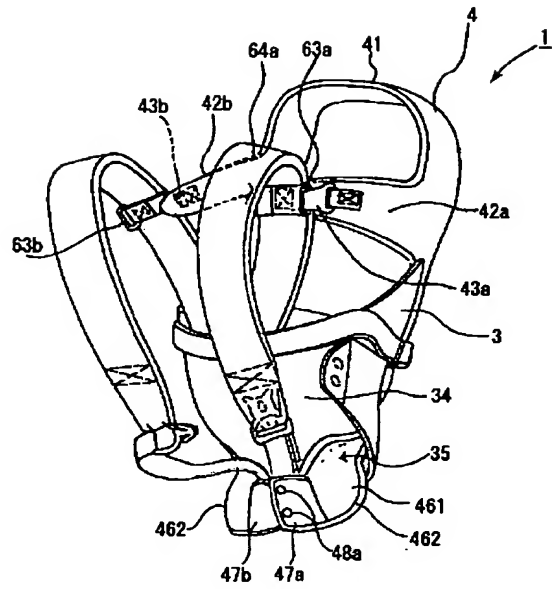
【図 9】



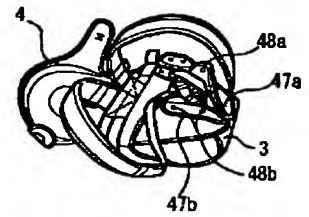
【図 11】



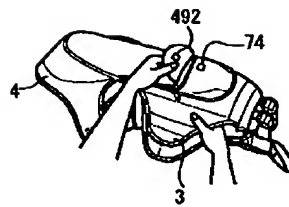
【図 10】



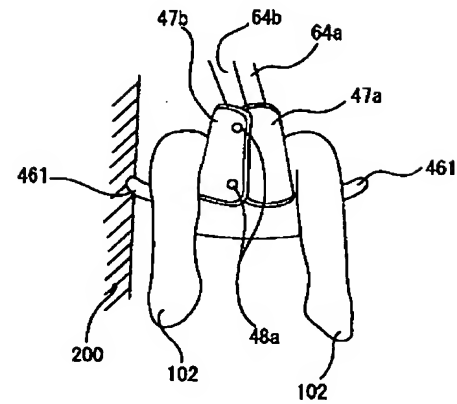
【図 14】



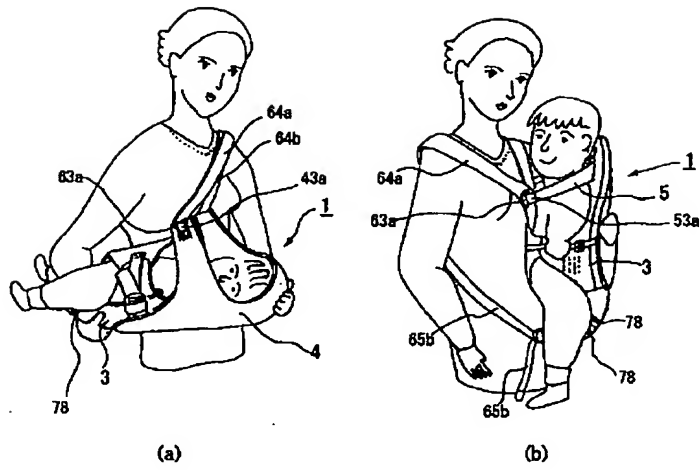
【図 13】



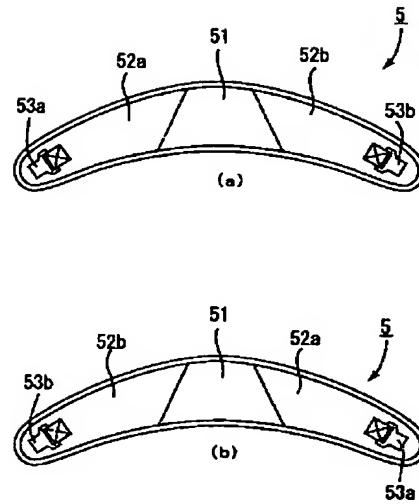
【図 17】



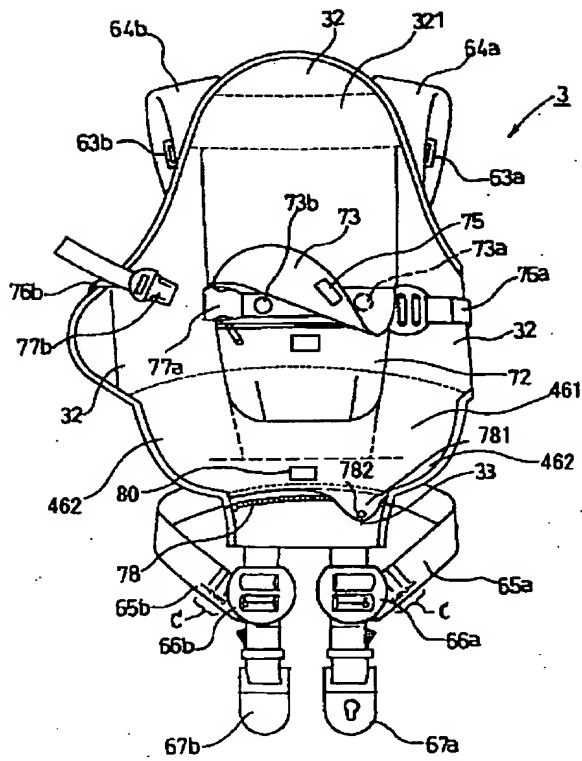
【図15】



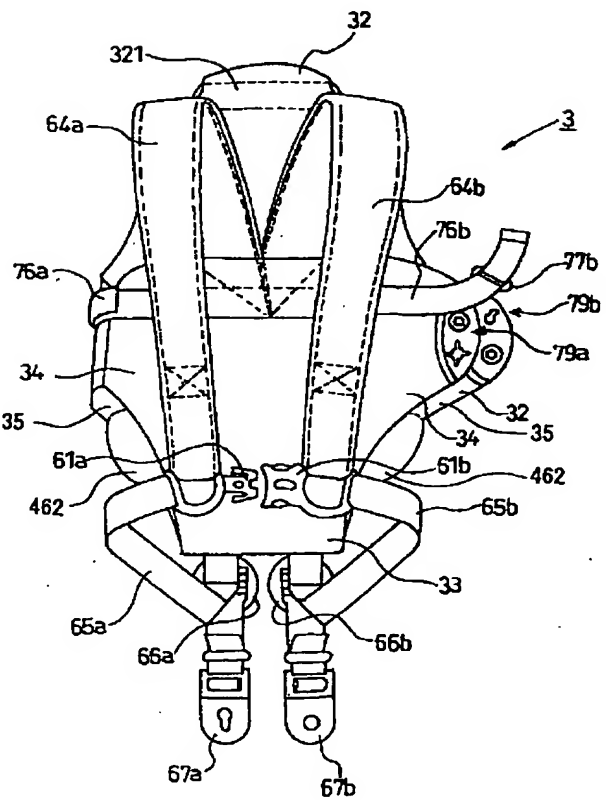
【図16】



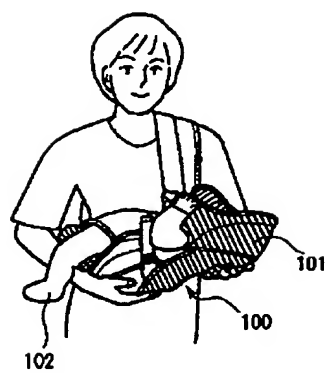
【図18】



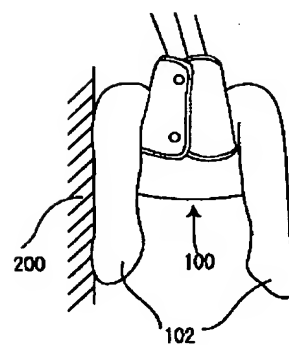
【図19】



【図20】



【図21】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS

☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

☒ FADED TEXT OR DRAWING

☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

☐ SKEWED/SLANTED IMAGES

☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

☐ GRAY SCALE DOCUMENTS

☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.